

まちづくり協議会会長連絡会 議事録

日時：平成27年7月7日 9:30

会場：富士市教育プラザ

1. (仮称) まちづくり活動推進条例について

会長からの意見

【A地区】

- ・まちづくり協議会の会長は責任を負わされているだけという感じがする。まちづくり協議会の立ち位置を市はどのように考えているのか。現在まちづくり協議会26地区のうち、19地区の会長が町内会・区長会と兼務しており、7地区の会長がそれ以外となっている。議会モニターに生涯学習推進会連合会の代表と町内会連合会の代表は呼ばれているのに、まちづくり協議会は呼ばれていないのが現状。生涯学習推進会と町内会連合会は、連合会があるが、まちづくり協議会は連合会がない。実体として区長会がトップという構造は変わっていない。
- ・まちづくり協議会は団体として認知されていない。看板はあるが中身がない。という実態を踏まえてから条例を作るべきである。条例を作ると強制力があがる。条例は何のために作るのか。
- ・寄せ集めの委員はやりづらい。(協議会には生涯学習推進会や町内会のメンバーがいる。)
- ・運営は任せてもらいたい。
- ・町内会長・区長会とまちづくり協議会のどちらに重点を置くのか。
- ・日詰先生に、協議会会長達の意見を聞く場を設けてほしい。

【B地区】

- ・協議会長と区長が兼務だと多忙ではあるが、区民一人一人に情報を流しやすいし、様々な活動の流れをつかみやすい。協議会会長単独でやるのは難しい。
- ・区長会は義務的なもの、まちづくり協議会は自由にできるものという区分けが良いと思う。「やらされる」ではなく、「やろう！」という姿勢になるよう焦らず進めて欲しい。
- ・まちづくり行動計画という5年の枠を設けられるとボランティアの今の組織では辛い。
- ・相談窓口を強化してほしい。

【C地区】

- ・まちづくり協議会は立ち上がったが、地区は「やろう！」という雰囲気ではない。生涯学習推進会が実績ある活動を続けてきた中で、委員会形式にするとかえってやりづらい。
- ・既存の組織ありきで、緩やかに進めていくべきだ。
- ・事業を成し遂げていくということを重点に置くべきである。
- ・条例でしばられてどうことができるのか。働くのは地区住民の我々である。
- ・実態を無視しては活動できない。組織ありきではなく、人ありきであるべき。
- ・運営方法は任せてもらいたい。

【E地区】

- ・区長会長も生涯学習推進会会長も経験した。まちづくり協議会の会長はそういう立場の人

が良いと思う。今後もこの体制を続けていくために位置付けと金が必要だ。

- ・まちづくり協議会の会長は責任だけ負わされている感じ。
- ・区長会長は1年交代であるため、最初からまちづくり協議会と区長会は別枠としている。

2. 事業補助金の包括について

会長からの意見

【D地区】

- ・一括にするのは問題ない。会計は素人がやっているので簡単にすべき。事後清算ではなく、全額事前払いをして欲しい。
- ・今現在、体育祭、文化祭の補助金が前金で9割、事業完了後に1割の支払いとなっているがやめてもらいたい。事務手続きが煩雑になるばかりである。

【E地区】

- ・補助金の5%カットした理由をはっきりしてほしい。
- ・すべての事業完了後に補助金を清算ということであるが、事業完了後ではすべての事業の資金を地区でまかないきれない。立て替えるのは現実的でなく、事業ができなくなる。
- ・地区によって人口の違いがある。一人当たりの補助率が違ってくるが、市はどのように考えているのか。

【B地区】

- ・生涯学習推進会の基幹事業に手をつけることになるし、それぞれの事業に格付けをするつもりなのか。

【C地区】

- ・協議会の運営に対する補助はどうなっているのか。自主防でも運営と設備の補助があるからできないことはない。

【F地区】

- ・4事業を包括して補助金をもらっても、これまでと同じ金額であり地区は潤わない。対象事業すべてが既得権のある補助金なので、これに手をつけるのは問題だ。まちづくり協議会が新たにスタートするにあたって交付する、活動していくための運営補助金のような新しい補助金、交付金がほしい。検討をぜひお願いしたい。

【G地区】

- ・まとめて申請するだけでは包括補助金といえない。
- ・以前は包括化を早く進めて欲しいと考えていたが、まちづくり協議会が動き出して時期尚早という考えに変わった。現時点の素案ということであるが、今、早急にやる必要はない。まずは地区が活性化しなければいけない！！

【H地区】

- ・各種事業をしきっている団体が主体、協議会は後発的、結局はたいこ持ちでしかない。

3. 意見交換

会長からの意見

【G地区】

- ・まちづくり協議会を導入し、将来的な方向性としてどこに落とし込んでいくのか。何とな

くわかってはいるが、市の考えるゴールを見える化して欲しい。

【C地区】

- ・ 少子高齢化で、今後行政は益々厳しくなると、将来的には地域が自立してやっていくことになる。市はこれを見越して取り組んでいると思っているが、地区としては強制でなく楽しくやることを考えたい。苦勞を苦勞と感ぜない工夫が必要だ。
- ・ 個々の団体には存続してもらいたい。